

# さようなら櫛田ふきさん

よばうじの会ユス



平塚らいてうの会の会長、櫛田ふきさんは二月五日、逝去され、お別れ

志は憲法九条を守りぬき、戦争を許さない国にすることでした。その遺志を引き継いでまいります」とのべました。つづ

さつに立ち（写真）「櫛田さんの最後までの熱い

穂子、緒方靖夫、落合恵子、木村康子、黒柳徹子、近藤とし子、塩田庄兵衛、鈴木光枝、関屋綾子、瀬戸内寂聴、高野悦子、中村紀伊、羽田澄子、松田解子、守谷武子、中山洋次、横井久美子。

会が十七日、東京都青山葬儀所で行なわれました。櫛田さん百二歳の誕生日にあたるこの日、別れを惜しんで、全国各地から七百五十人が参加、小林登美枝副会長が葬儀委員長をつとめました。

お別れ会は松平晃さんのトランペット吹奏で開会。日本母親大会（一九九七年・岡山）での櫛田さんのあいさつの声が、テープで流されました。

小林さんが葬送のあいさつに立ち（写真）「櫛

青木生子、一戸葉子、井上美代、江尻美穂子、緒方靖夫、落合恵子、木村康子、黒柳徹子、近藤とし子、塩田庄兵衛、鈴木光枝、関屋綾子、瀬戸内寂聴、高野悦子、中村紀伊、羽田澄子、松田解子、守谷武子、中山洋次、横井久美子。

（わがんせ）とは、笑顔を施すという一番簡単な美しい布施のこと。櫛田先生はいつもだれにでも笑顔を施しながら、女性たちのために道を拓いてこられました。私たちが世界平和を求めてたたかう時には、あの世からパワーを送つてお力を貸して下さい」と語りかけました。

弔辞は瀬戸内さんのほか、守谷武子さん（婦団連）、井上美代さん（参院議員・新婦人）、江尻美穂子さん（日本YWCA）、近藤とし子さん（栄養改善普及会）、中村紀伊さん（婦人年連絡会）、松田解子さん（作家）がのべ、弔電・メッセージは海外からも寄せられました。

葬儀委員は左記の二十人でした。

いて富永和重さんは「仏教用語の和顔施（わがんせ）とは、笑顔を施すという一番簡単な美しい布施のこと。櫛田先生はいつもだれにでも笑顔を施しながら、女性たちのために道を拓いてこられました。私たちが世界平和を求めてたたかう時には、あの世からパワーを送つてお力を貸して下さい」と語りかけました。

瀬戸内寂聴さんは「佛教用語の和顔施（わがんせ）とは、笑顔を施すという一番簡単な美しい布施のこと。櫛田先生はいつもだれにでも笑顔を施しながら、女性たちのために道を拓いてこられました。私たちが世界平和を求めてたたかう時には、あの世からパワーを送つてお力を貸して下さい」と語りかけました。

# 聞こえますか らいてうからのメッセージ

## 没後二〇年—一〇〇一年—らいでう忌

日時 5月19日（土）1時30分開会  
 会場 日本教育会館一ツ橋ホール  
 東京・千代田区一ツ橋2-6-2  
 ☎ 03(3230)2831  
 地下鉄「神保町」駅下車5分

挨拶 小林登美枝 平塚らいてうの会会長  
 対談 高良留美子 詩人・評論家  
 折井美耶子 女性史研究者  
 「平塚らいてうと女性群像」

挨拶 高野 悅子 岩波ホール総支配人（予定）  
 羽田 澄子 映画監督

演奏 日本フィルハーモニー交響楽団より  
 講演 米田佐代子 女性史研究者

主催 平塚らいてうの会  
 参加費 2500円

「らいでうとふき二人の遺言状」

「らいでうとふき二人の遺言状」



会

米田 佐代子

らいでうとふきを語りたい

「二月は逃げる」というのはほんとうだろうか。二十一世紀最初の二月は、もうちよつとで百二歳の誕生日を迎えるはずだった鶴田ふきさんを連れて、風のように逃げていってしまった。そのふきさんが中央実行委員長をつとめた国際婦人デーの夜も、三月というのに日本各地は雪の舞う寒さだった。けれども、すぐに四月がきて、そして憲法記念日のある五月になり、十九日には「平塚らいてう没後三十年」記念のらいでう忌が待っている。山梨から帰つて久しぶりに参加するわたしに、「女性と憲法」について語る役目がまわってきた。

わたしは「二人の遺言状」について話そうと思う。「午後の遺言状」ではないが、二十世紀をたっぷりと生き抜いた二人の女性——らいでうとふきが、ともに遺した最後のメッセージこそ「日本国憲法を守りぬこう」の一言だったからである。五月十九日はらいでうをしのぶとともに、「右手に平和憲法、左手にらいでう」と言いつづけたふきさんを忘れず、二人の志を受けとめて二十一世紀に生きるわたしたちの意志をしめす場にしたい。



俳句 羅の会代表 飯島ユキ

## 「らいでう忌」を歳時記に

載っている。

平塚らいてうの忌日

を季語として掲載して

思えてくる。

いる歳時記は、私の知る限りでは一九八二年度発行の日本大歳時記だけであるが、これも二〇〇〇年度の改訂版から削除されてしまった。このことを小林登美枝先生が出版元へ問い合わせされたところ、例句がないため削除したことであつた。私も今まで「らいでう忌」の句を二句しか目にしていないし、私自身もいまだ良い句が詠えないでいる。

俳句に季語は不可欠なものである。季語を集約した歳時記は俳人にとつては必須の書である。日本の四季があらゆる言葉で現わされ、例句も掲載されているので俳句に縁の無い人でも愛読している人が多い。

万にも及ぶ季語の中には、最近では目につかないものも少なくない。定斎壳、毒消壳、砧など挙げればきりがない。やがてこれらは死語として歳時記から消えて行くことであろう。

歳時記には文化人の忌日も季語として

「らいでう忌」が他の季語と一緒に死語にされてしまう危機感にかられた私は、私の属している俳句の会の仲間たちに「らいでう忌」への思いを語ったところ、私たちの俳句の会「羅」から「らいでう忌」を詠つて行こうということになった。早速、会員の中から、らいでうに関する書物を読む人、インターネットでらいでうを検索する人が出てきた。

私の住んでいる地域のフェミニズムの会の中にも、平塚らいてうを知らない会員がいるということを聞くにつけ、全国

度発行の日本大歳時記だけであるが、こゝれも二〇〇〇年度の改訂版から削除されてしまった。このことを小林登美枝先生が出版元へ問い合わせされたところ、例句がないため削除したことであつた。私も今まで「らいでう忌」の句を二句しか目にしていないし、私自身もいまだ良い句が詠えないでいる。

「らいでう先生は俳句を好まれ、中村汀女さん主宰の「風花」に参加され、多くの俳句を残しておられる。さい。

らいでう先生は俳句を好まれ、中村汀女さん主宰の「風花」に参加され、多くの俳句を残しておられる。

このことを知った私は、「平塚らいてうと俳句」というテーマで調べ始めている。

娘時代に成城のらいでう先生の隣りに住まうという幸せに恵まれ、らいでう先生、博史先生ご夫妻に可愛がつていただけた私にとって、良いライワークが出来た。これは没後三十年にして、らいでう先生から賜つたテーマであると思つて

いる。

らいでうの文机高し笛子鳴く  
 らいでうの文机に吾が名や梅の花  
 ユキ  
 (松本市在住)

## 堀保子

の前はらいてうが住んでいました。

「堀保子さんは（大杉と）別居してわ

たくしたちの住んでいた山田さんの裏の  
堀保子は、大杉栄の最初の「妻」とし  
て知られる女性です。

『青鞆』が「新しい女たち」と騒がれ  
ていたころ、保子は請われて『青鞆』に  
「私は古い女です」を掲載しました。し  
かし保子は文字通りの「古い女」ではあ  
りませんでした。大杉が神近市子だけで  
なく伊藤野枝とも恋愛関係に入つたと知  
つた保子は、一九一六年三月に大杉と正  
式に別居して四谷区南伊賀町四一番地

（現在の新宿区若葉二丁目）、山田嘉吉  
・わか宅の裏にあつた家に引っ越し、一  
九二〇年七月まで住んでお  
りました。

保子は『中央公論』に掲  
載した「大杉とわかれまる  
で」のなかで「一夫多妻の  
犠牲になつて自己を没して  
了ふ事は、どうしても心が  
許してくれません」と書い  
ています。

保子が住んだ家には、そ

## 新会長は小林登美枝さんに

櫛田ふき会長の逝去にあたり、会の定  
款に従つて理事会で互選し、小林登美枝  
副会長が新会長に就任しました。また新  
副会長に守谷武子理事を互選しました。

## 〔事務局メモ〕

12月25日 ニュース第31号発送  
1月19日 記録映画をつくる会に出席

1月24日 「お話と映画のつどい」第4回開催  
1月30日 「お話と映画のつどい」第5回開催  
最終回盛会のうちに終わる

1月31日 第4回理事会開催

2月5日 櫛田ふき会長 午後8時10分逝去  
2月8日 櫛田家告別式 練馬区・宝龜閣斎場  
2月17日 「櫛田ふきさんとのお別れ会」港区  
・東京都青山葬儀所（らいてうの会  
など女性5団体が準備）

2月27日 第5回理事会 新会長と新副会長を  
互選 NPO再申請の手続きを準備  
3月7日 記録映画をつくる会に出席  
3月8日 東京都にNPO再申請  
国際婦人デー中央集会ほか3会場で  
「らいてう忌」集会のチラシ配付

3月21日 第6回理事会開催

（らいてう研究会 河原 彩）